



大学教育再生加速プログラム

大学教育再生加速プログラム採択事業シンポジウム
～ 国際バカロレアが示唆する新しい高校教育・大学入試 ～

◆日 時 平成28年10月11日(火) 13:00～17:00

◆場 所 岡山大学創立五十周年記念館

プログラム

12:30～ 受付

13:00～ 開会の挨拶 岡山大学理事・副学長(教育担当) 許 南浩

講 演

13:10～13:40 ■日本語A(文学)の口頭試問とIB最終試験

International School of Düsseldorf e.V. 吉田 孝

13:40～14:10 ■CASとTOKから見た日本の高校教育への提案

立命館宇治中学校・高等学校 久保 敦

事例報告

14:10～14:40 ■TOKと教科横断的な学び～実践事例の共有～

立命館宇治中学校・高等学校 小澤 大心

14:40～15:10 ■Dual Language校の実践報告

沖縄尚学高等学校 宮城 直人

15:10～15:25 ■TOKワークブック「知の理論をひもとく」の作成

岡山大学高等教育開発推進室 森岡 明美

15:25～15:40 ■IB数学 Higher Level の選択分野と大学での単位認定の可能性

岡山大学アドミッションセンター 田中 克己

15:40～ 休 憩

16:00～ 17:00 パネルディスカッション

モデレーター

岡山大学アドミッションセンター 田中 克己

パネリスト

International School of Düsseldorf e.V. 吉田 孝

立命館宇治中学校・高等学校 久保 敦

立命館宇治中学校・高等学校 小澤 大心

沖縄尚学高等学校 宮城 直人

岡山大学高等教育開発推進室 森岡 明美

17:00 閉 会

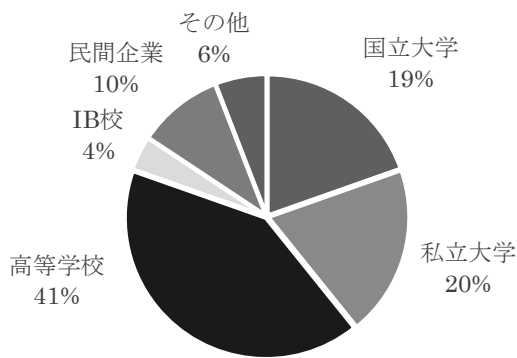
17:30～ 意見交換会(会場:Jテラス/会費制90分)

大学教育再生加速プログラム採択事業シンポジウム
～ 国際バカロレアが示唆する新しい高校教育・大学入試 ～

日 時 平成28年10月11日(火) 13時00分～17時00分
 場 所 岡山大学創立五十周年記念館

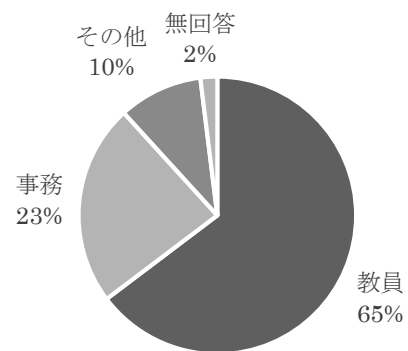
参加者数 89名 (学外69名 学内20名)
 アンケート回答者数 51名

問1 所属を回答ください。

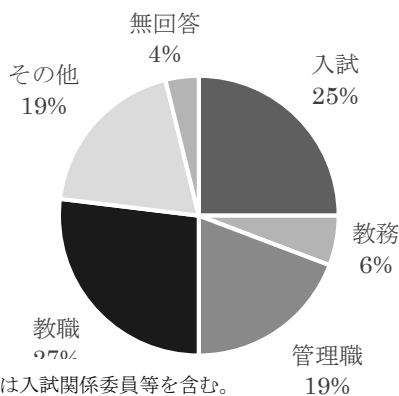


*高等学校はインターナショナルスクールを含む。

問2 職種をご回答ください。

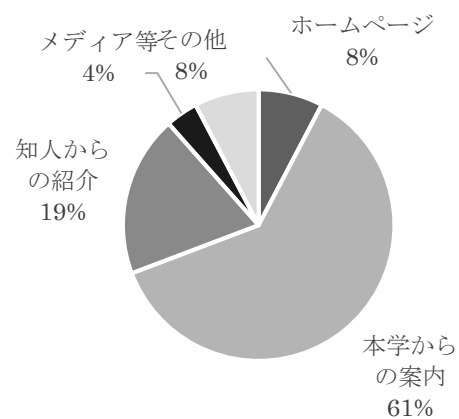


問3 役職(ご担当のお仕事)を回答ください。



*入試は入試関係委員等を含む。
 *教務は教務関係委員等を含む。

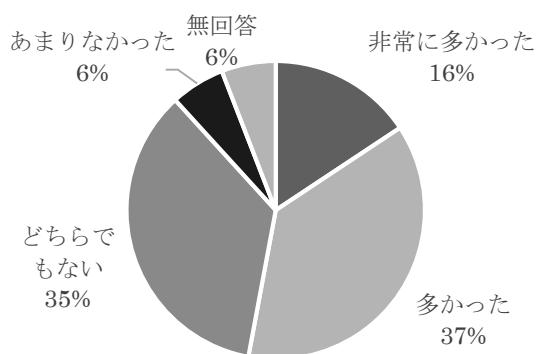
問4 本日のシンポジウムの開催をどちらで知りましたか。



問5 本日のシンポジウムはいかがだったでしょうか。それぞれについて回答ください。

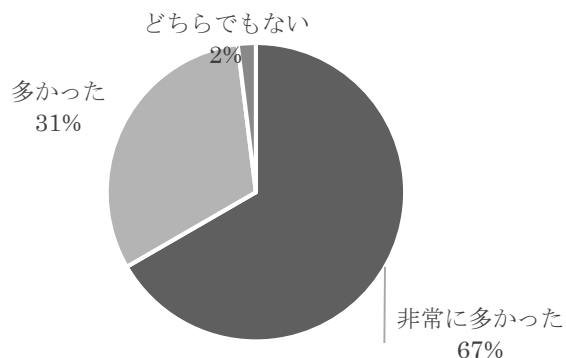
■日本語A（文学）の口頭試問とIB最終試験

International School of Düsseldorf e.V. 吉田 孝



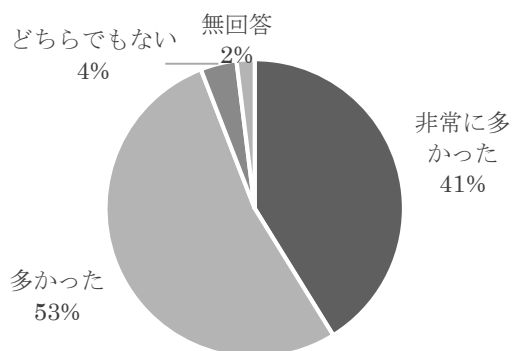
■CASとTOKから見た日本の高校教育への提言

立命館宇治中学校・高等学校 久保 敦



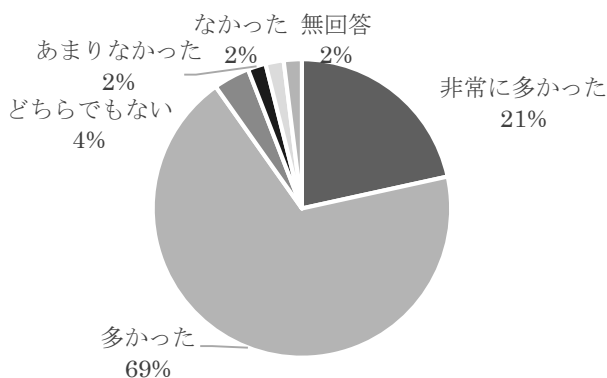
■TOKと教科横断的な学び～実践事例の共有～

立命館宇治中学校・高等学校 小澤 大心



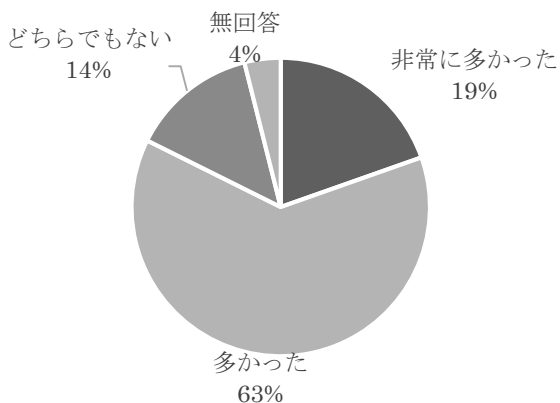
■DUAL Language校の実践報告

沖縄尚学高等学校 宮城 直人



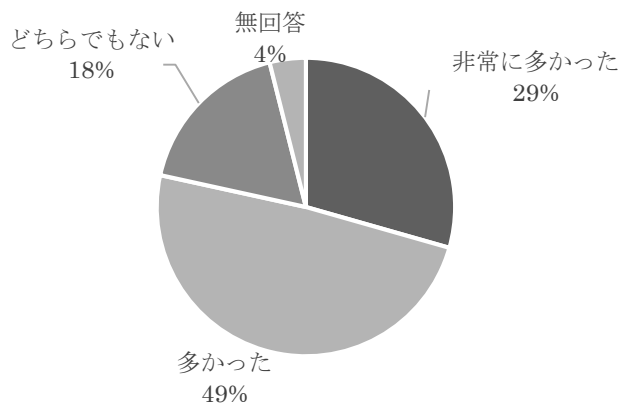
■TOKワークブック「知の理論をひもとく」の作成

岡山大学高等教育開発推進室 森岡 明美



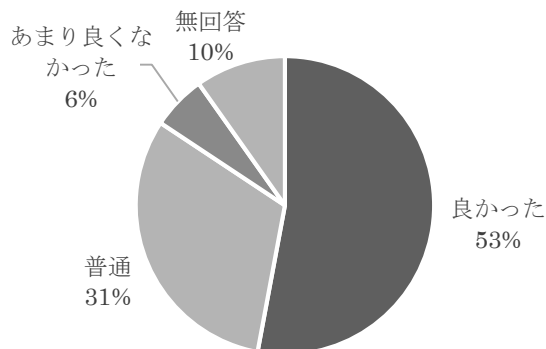
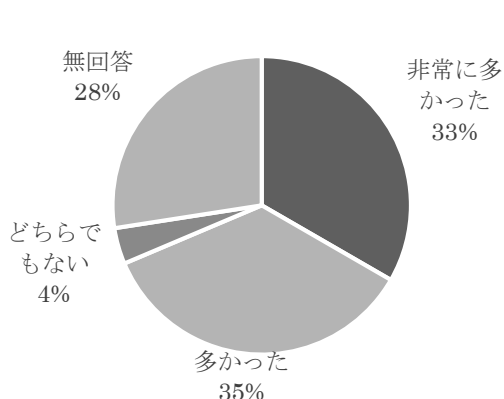
■IB数学 Higher Level の選択分野と大学での単位認定の可能性

岡山大学アドミッションセンター 田中 克己



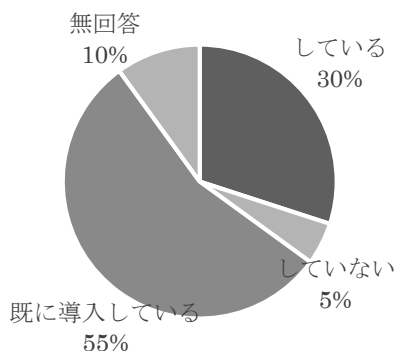
■パネルディスカッション

問6. 全体の運営はいかがだったでしょうか。



問7. 大学関係者の方に伺います。

①貴学へのIB入試導入を検討していますか。

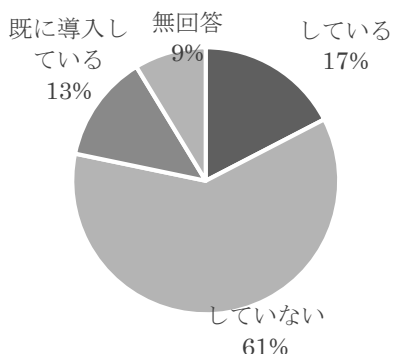


②岡山大学IB入試制度についてのご意見があればご記入ください。

- ・先進的で素晴らしい。
- ・大学の教員ですが、ほとんどの教職員はバカロレアについてほとんどわかっていません。誰でもわかる簡単なパンフレットのようなものを作って欲しいです。入試判定でもいつも困っています。

問8. 高等学校関係者の方に伺います。

①貴学では、IB認定校になることを検討されていますか。



(かつて導入を検討していたが、今は断念。しかし将来的には視野に入れている。今一度再検討したいと思っている。) 1名

②岡山大学のIB入試、入試制度についてご意見があればご記入ください。

- ・海外では、スコアで合否が決まるが、国内では面接や小論を課したりというところもあると聞いています。どうせやるなら、思い切って、海外の基準でやり、検証してみたいでしょうか。
- ・枠を是非拡大していただきたいと共に、スキップについて先例となるよう積極的に取り組んでいただきたい。
- ・学生の質を高めるために必要なことと考える。入学後にIB入試入学者には、特別なプログラムを用意するが、一般学生の学びをリードするようなポジションを与えると良いのではないだろうか。
- ・今後ともよろしくお祈りします。

・多様性という観点では、重要なアプローチであろう。しかし、高校の現場からすると、日本の教育課程との違い、費用の問題もある。導入は现阶段では考えられない。コースへの入学希望者が採算レバルにあるとも思えない。

- ・IB 入試合格者の入学率の低さはどのように考えているのか。
- ・人数比で、IB と現行の有利不利はないのか気になりました。(募集と実際の差)
- ・全ての高校が IB 校になれないという現実の中で、IB 入試を導入するならば、IB 校しかない地域の生徒や IB 校ではない高校の生徒への対応は、検討しなくて良いのか。
- ・グローバル・ディスカバリー・プログラムに興味があります。IB 入試は既に実績があるとのことですが、(医学部?) 入学後の学業成績はどうなのでしょう。

問9. 国際バカロレア (ディプロマ・プログラム) 教育や大学入試について何か知りたいことはございますか。

<大学の受入体制>

- ・大学での IB 生の (入学後) 受入体制 (教育庁)
- ・DP を取得した生徒 (入学者) が入学後、満足できるような体制を大学で用意できるかどうか、その状況について (民間企業)

<IB 入試>

- ・IB 修了生に対する適切な入試方法 (大学教員)
- ・より多くの IB 生が受験を検討するような、日本の大学の姿とは? 大学の入試制度とは? どんな入試制度なら、IB 生が受験したくなるか、考えていきたいので、そのヒントが知れたらと思います。(大学事務)
- ・感想ですが、入試改革に関して、短期的には、IB 校生の取り合い (選ばれ合い) になるのでは。その際、選ばれる大学であるためには、入試の前に大学教育が変わらなければ。中期的には、IB 教育が示唆するように高校 (大学) 教育が変わったとき、大学入試 (特に個別試験) は、本当に、今回話題になった入試問題のようで良いのか。(大学教員)

<入試一般>

- ・今後センターに代わる試験の方向性について知りたい。(IB 校教員)
- ・文科省においても、入試改革の声はかなりトーンダウンしているように思われますが、どう実施されるのでしょうか。既に、中高一貫校には、生徒が入学しています。アナウンスが欲しいところです。(高校教諭)
- ・2020 年度の新テスト導入に向けて、大学入試の変化に伴い、高等学校の学びにも変化が見られると思いますが、中学校教育では今後どのような力を付けていくことが求められているか、大学入試に資料持ち込みや、インターネットの使用が認められるようになり、知識の活用や批判的思考を確かめられるようになるのか、それとも必要最低限と言われる知識・技能を見られるようになるのか具体的に知りたいです。(中学校教諭)

<IB 教員養成>

- ・バカロレア教員養成について、その方法 (日本の実情) を知りたい。(2 名、高校教諭)
- ・岡山大学での IB 教員養成は検討されているのか。(高校教諭)

<IB ワークショップ・研修会>

- ・貴学に、現職教員が、IB について学ぶことのできる公開講座や研究会はございますでしょうか。もしございましたら、是非参加したいと考えております。(高校教諭)
- ・知識・情報不足で恥ずかしい限りですが、基本的なことの情報を知らない、主流になったとき、ついていけないと痛感しました。具体的な例と共に、研修会などがあれば是非参加したいです。(高校教諭)

<IBDP カリキュラム等>

- ・一条校での高1生時は何をさせているのか。(高校教諭)
- ・一条校それぞれの DP カリキュラムの内容。Predicted での合格発表について。(私大事務)
- ・教科と TOK をもっと具体的に知りたい。(大学教職員)
- ・エッセイやプレゼンテーションなどのオーセンティックな事例やその採点基準。また、DP を取得した生徒たちの、TOK や CAS に関する印象などを聞く機会があればと思います。TOK とクリティカルシンキングとの関係性や、PISA の 4C との関係性などの整理。(民間企業)
- ・IB の (大学での) 単位認定の問題 (高校教諭)
- ・IB Math HL の中身の濃さ、日本の高校数学との生徒の習熟度の違いについて知りたいです。(民間企業)
- ・Math SL と日本の数学のカリキュラムの相違も、HL 同様に知りたかった。(私大事務)
- ・TOK の普及法→森岡先生のワークブックに期待しています。(民間企業)

問 10. その他、本日のシンポジウムに関してご意見・ご感想等、自由にご記入ください。

<内容について>

- ・発表内容のポイントを絞り、初心者にも分かりやすいレベルで展開してほしかった。
- ・TOK の WS など、いろいろ input しましたが、「結局よくわからない」と感じていました。
- ・(森岡先生の発表に関して) TOK の学習の流れは、知識としては入っていますが、なぜ一般化した問いを作る必要があるのかが理解できません。ワークブックを作る際は、一つ一つのステップの意図についての説明があると、指導しやすいと思います。
- ・TOK 的、CAS 的なものを、IB 認定校以外でも、しっかり取り入れるべきだと思います。(このことは、今に始まったことではないのですが。) IB は素晴らしいモデルとなっているので、参考にしていきたいと思えます。
- ・IB について、その評価方法など知らないことも多かったです。とても勉強になりました。毎年開催していただくとありがたいです。特に、領域別の TOK 実践報告があるとありがたいです。(問いに対して、生徒がどのような問いを立てたのか知りたい。)
- ・「絶えず思考が生まれる授業」という言葉に感銘を受けた。IB について全く知らなくて、最初の講演はよく理解できなかったが、シンポジウムでようやくわかってきた。大変面白かった。
- ・貴重なお話をありがとうございました。IB は学びの本質を捉えた制度なのだと改めて感じました。最後の話にでた、IB 生を受け入れうる社会、というのは、大学も含めて、そうなるべきなのだと思います。
- ・非常に学びの多い 1 日となりました。また、次の機会がございましたら参加させていただきます。TOK の「危険性」「穴」についても触れていただきたかったです。
- ・発表いただいた先生方、パネルディスカッション、どうもありがとうございました。どのプログラムも大変素晴らしかったです。具体例、実践例、体験談が多く、とても分かりやすく、参考になりました。ありがとうございました。
- ・具体的なお話が多く聞けて、大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・半日で、IB について、その実践についてたくさんを知ることができました。多面的に IB について学ぶことができたので良かったです。
- ・すばらしい。とても良かった。中身が濃く、消化に時間がかかります。
- ・内容が多すぎて頭がパンクしそうでした。一度にたくさん聞けて良かったです。
- ・とても勉強になりました。ありがとうございました。

- ・とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・とても素晴らしい機会をいただきありがとうございました。
- ・大変有意義な時間が持てました。また参加したいと思います。
- ・お世話になりました。
- ・大変参考になりました。今後もシンポジウム、ワークショップを開いていただけるとありがたい。
- ・貴学では、IBのワークショップを開催される計画はありますか。
- ・本日はこの様な機会をいただきありがとうございました。今回は、高校教育・大学入試を主にお話しただいたかと思いますが、社会全体の大きな流れとしてとらえ、保幼小・中高大、そして地域、家庭を含めて「教育シンポジウム」がひらかれ、今後の日本教育を考える機会があれば、とてもありがたいです。また、よろしく願います。
- ・いわゆる知識・理解にとどまらない、「新たな学力」は必要だと考えています。しかし、日本は世界屈指の先進国であり、これまでも多くの規格を取得していることから、イノベータでもあった。バブルまで、「3高」などと言われ、努力することが成功につながると信じ、自らの向上心が原動力にあったと思う。バブル崩壊後、少子高齢化時代を迎え、不安定な時代を迎えている。頑張る理由が見当たらない。根本的な原因はここにあると私は考えている。しかし、少ない人材から、将来国を支えるイノベータを排出するために、改革が求められており、参考になればと参加させていただきました。ありがとうございました。

<運営について>

- ・手元が暗く、レジュメが見づらかった。
- ・マイクの位置が低すぎて、吉田先生が話しにくそうでした。

大学教育再生加速プログラム採択シンポジウム実施報告
「国際バカロレアが示唆する高校教育・大学入試」

日時：平成28年10月11日（火） 13:00～17:00

場所：岡山大学創立五十周年記念館

主催：国立大学法人岡山大学アドミッションセンター

参加者：高等学校、国内IB校とIB修了者受入大学，岡山大学関係者

趣旨・概要：

我が国の学校教育は、従来の知識・技能を教える教育から、自ら進んで考え、判断し、多様な人々と協働して問題を解決する資質や能力を育むための教育に、大きく転換しようとしています。そのような資質や能力を育むための指導や評価法には、教育プログラムとして高く評価されている国際バカロレア（IB）教育から多くのヒントを取り入れられると考えました。そこで、本シンポジウムにおいて、「国際バカロレアが示唆する高校教育・大学入試」をテーマに、国内外のIB校において、実際に教科教育を実施されている教員の方々をお招きし、今後の高等学校教育と大学入試の向かう方向について考えました。

海外からは、国際バカロレア日本語科目教員・同試験官である吉田孝氏を迎え、講演いただきました。次に、日本の1校校として早くから国際バカロレア機構からIB校として認定され、先進的な教育を実施されている立命館宇治中学校・高等学校より、久保敦氏・小澤大心氏を迎え、国際バカロレアのコアカリキュラムである TOK（Theory of Knowledge）や CAS（Creativity, Action and Service）についての講演及び事例報告をいただきました。続いて、IB ディプロマ・プログラムの一部科目の授業と試験・評価を日本語で実施するデュアル・ランゲージ・ディプロマ・プログラムを導入している沖縄尚学高等学校から宮城直人氏に、デュアル・ランゲージ校の実態について報告をいただきました。その後、本学教員より、日常の社会問題などを TOK 流に分析するワークブックの作成について報告し、さらに、数学の教科を例に挙げ、IB ディプロマ・プログラムと大学での指導内容の共通事項などについて報告しました。最後に、本学教員と IB 国際バカロレア教育に携わる各関係者とパネルディスカッションを実施しました。

講演

日本語 A（文学）の口頭試問と IB 最終試験

吉田 孝（International School of Düsseldorf e.V.）

CAS と TOK から見た日本の高校教育への提案

久保 敦（立命館宇治中学校・高等学校）

事例報告

TOK と教科横断的な学び～実践事例の共有～

小澤 大心（立命館宇治中学校・高等学校）

Dual Language 校の実践報告

宮城 直人（沖縄尚学高等学校）

TOK ワークブック「知の理論をひもとく」の作成

森岡 明美（岡山大学高等教育開発推進室）

IB 数学 Higher Level の選択分野と大学での単位認定の可能性

田中 克己（岡山大学アドミッションセンター）

パネルディスカッション

モデレーター 田中 克己

パネリスト 吉田 孝、久保 敦、小澤 大心、宮城 直人、森岡 明美

内容

きっかけは「2020年の大学入試問題」講談社新書、石川一郎著に出てくる順天堂大学医学部入試の小論文の問題である。ロンドン地下鉄キングス・クロス駅の階段の写真を見せ、思うことを800字で論じる問題である。これまでの日本の高校教育では何を答えて良いか皆目分からない問題で、きっと多くの受験生が固まってしまったことだろう。しかし、この写真を見て、何かを感じ取り、そこから自由に論を展開する力は、ある種のトレーニングが必要と思われる。そこで要求されるのが正にIBのTOKで培うべき力に他ならない。

立命館宇治の小澤先生はすでに中学からこのような力を養うべくTOK的な授業の導入を試みている例が紹介された。森岡先生はTOKの授業を日本語で実施するにあたり新たな教材の開発を紹介された。また、IBのJapanese A担当の立場からデュッセルドルフの吉田先生は大学で学習するために必要な言語の表現応力について言及された。沖縄尚学の宮城先生はJapanese Dualの一期校としての取り組みを紹介していただいた。

立命館宇治の久保先生の言葉を借りれば、IB生を受け入れるにあたり我々日本の大学にとって最も大事なことは、『彼らが満足できる学習環境を提供すること』なのであろう。